愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	音楽	学年	2	年	時間数	35 時間
----	----	----	---	---	-----	-------

教	科書	名 中:	学生の音楽2・3上	出版社名				教育芸術社
234			指導計画		雪亚。	価の領	ョ占	T
学期	月	単元		容	知	思思	主	授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		器楽:アルトリコーダー(通年)	アルトリコーダーの基本的奏法、アンサンブル	V	0	0		授業の概要
	4	歌唱:歌い合わせる喜び	○「夢の世界を」			} 	l	音楽1で学んだ基礎的な技能を踏まえ、歌唱
	7		・ 基礎的な歌唱技能の確認		0	0		鑑賞活動を行います。また、年間を通してアルトリコーダーを演奏します。歌唱では、混声三部名
								唱に取り組み、各声部の役割の大切さに気付き ながら、表現することの素晴らしさを味わいます
		歌唱:歌詞の内容を味わって	○「フーガト短調」			ļ	ļ	
	5	中間考査(5/14~5/15)	 ・各声部のかかわりの聴取					
				理解	0		0	
学 -								
		歌唱:歌詞の内容を味わって	〇「翼をください」			l	 -	
期		William State of the Control of the	・ 歌詞の理解、諸記号と声部の役割の確認		0	0		
	6		SALITON ELIAN GENERAL SERVICE					 学 習 の 到 達 目 標
								・ 発声や発音、ハーモニーを意識し、楽曲に応
-		期末考査3年(6/26~7/2) 期末考査2年(6/27~7/2)			0	0	0	じた歌唱表現をすることができる。 ・ アルトリコーダーの基本的な奏法を身に付け
		歌唱:日本の美しい情景を表す歌	 ○「荒城の月」			 -	ļ	アンサンブルを楽しむことができる。
	7	歌唱: 日本の美しい 情景を表り歌		ナルム」と可加用	0	0		・ 言葉や音階などの特徴を生かして、表現をコ 夫して旋律をつくることができる。
\vdash			・ 歌詞が表す情景の表現と、拍子、速度、形式	を生かしに歌唱		ļ		◆ 楽曲の歴史的背景を理解し、情景、表現要素(速度、強弱など)や構成要素(音域、楽器の音
夏		五千 <u>十</u> 卷日/7 /00 0 /05)				ļ	ļ	色、リズムなど)を聴き取り、自分の言葉で表現 することができる。
季	8	夏季休業日(7/20~8/25)				ļ 	ļ	, 0 = 2 12.00
			0 *****					
		A	〇 一学期末より引き続き「荒城の月」		0	0	ļ	
		創作:言葉を生かした旋律作り	O「マイメロディ」 		0	0	0	
	9		・俳句に音を付けて、作曲活動を行う			ļ	ļ	評価の観点
		歌唱:曲想の変化や音楽の構成を生か						知識・技能・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び
			・ 曲想の変化を味わい、ふさわしい表現を工夫					音楽の多様性について理解している。
l			・ 音楽の構成を理解し、全体の響きを感じ取り		0	0		・・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表して
=		中間考査(10/10~10/11)	・ 主旋律の声部を確かめ、強弱の設定を生かし	た歌唱				เงอิง
	10							
学						ļ	ļ	思考 ・ 判断 ・ 表現 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連
期		-鑑賞:総合芸術の魅力 -オペラ-	〇 鑑賞曲 オペラ「アイーダ」					知覚し、それらの働きが生み出す特質な雰囲気
			・ 物語の内容や台詞に伴う音楽表現の豊かさ	の聴取	0		0	を感受しながら、知覚したこと感受したこととの わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現と
	11		・ 人物の役柄と声の種類や音域との関わりの理	里解				てどのように表すかについて思いや意図を持っ たり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わっ
			・ 音楽と他の芸術との関わりの理解					聞いたりしている。
		期末考査3年(11/27~12/3)			0	0	0	主体的に学習に取り組む態度
		期末考査2年(11/28~12/3)	O「やさしさに包まれたなら」 					・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現
	12	歌唱:歌い継ごう日本の歌	・声部の関わり合いを理解する		0	0		及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
A			・曲にふさわしい表現の工夫			ļ	ļ	
冬季		冬季休業日(12/21~1/7)				ļ	ļ	
		鑑賞:日本の伝統的な声の特徴	〇 鑑賞曲 歌舞伎「勧進帳」					評価方法
	1		・ 物語の内容を理解し、音楽と舞台との関わり	による表現を味わう	0		0	学習の状況は、、「知能・技能」、「思考・判断・ 表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つ
			・ 歌舞伎音楽の特徴や役割の理解			ļ	ļ	┃観点で評価します。また、「出席」、「授業態度・〕 組方」、「実技テスト(歌唱・器楽)」、「定期考査.
ַ ו		歌唱:響き合うよろこびを味わおう	〇「大切なもの」					「提出物(創作や鑑賞)」でも評価します。学年の 成績は、上記の観点から評価した各学期の成績
			・パート別練習及び全体練習		0	0		の平均とし、5段階法で評定します。
学	2		・ 主旋律と声部の役割を理解し、速度や強弱の)変化を楽しみながら合唱		<u> </u>	ļ	
期		学年末考査3年(2/21~2/28)			0	0	0	
,v1		学年末考査2年(2/25~2/28)			<u> </u>			備考
			○1年間のまとめ					
	3				0	0	0	

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	音楽	学年	3	年	時間数	35 時間
----	----	----	---	---	-----	-------

教	科書	·名	生の音楽2・3下	出版社名					教育芸術社 ————————————————————————————————————
ът.		<u> </u>	指導計画		T	証布	五の復	■占	<u> </u>
学期	月	単 元	<u>и 4 и е</u>	容		知	思思	主	- 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		器楽:アルトリコーダー(通年)	アルトリコーダーの基本的奏法、アンサンブル	,		0	0		授業の概要
	4	歌唱:日本の美しい情景を表す歌	〇「花」					ļ	ー、二年生で学習した内容をもとにさらに学習 内容に広がりをもたせます。
	-		・ 歌詞を味わい、情景を感じ取った歌唱						歌唱では、イタリア語の歌曲や、合唱曲を歌い
			・ 言葉と旋律の関わりや伴奏の効果を感じ取り	J表現を工夫		0	0		ます。器楽では、アルトリコーダーの練習に加えて、筝の基本的な奏法を学び、鑑賞では、形式
									↓ や演奏形態を理解しながら楽曲への理解を深めます。
	5	中間考査(5/14~5/15)	1						
-		鑑賞:音楽の構成を理解して	─ O 鑑賞曲「ボレロ」		-			ļ	•
学			・ 繰り返しの効果と変化する音色や組み合わせ	による響きの聴取		0		0	
		歌唱:歌い合わせ、聴き深める喜び	〇「時を越えて」					} 	•
期			・ 主旋律の表れ方を確認し、曲想を味わいなか	「ら表現を工夫		0		0	
	6								 学 習 の 到 達 目 標
			+						・ 楽曲の演奏に適当である表現を楽譜から読ん
		期末考査3年(6/26~7/2) 期末考査2年(6/27~7/2)				0	0	0	取ることができる。 ・ 記号の読みと意味を理解し、演奏に必要な演
		創作:言葉を生かした旋律作り	━ ○ マイメロディ		-			 	· 奏技術を身に付けることができる。 ・ 音素材の特徴を理解し、自分のイメージや音
	7		・和音に含まれる音から旋律を作り創作を行う			0	0	0	
									・ 楽曲の形式と背景を理解し、美しさを感受した
夏		夏季休業日(7/20~8/25)			-			 -	がら鑑賞し、自分の言葉で表現することができる。
季	8	X-711-X-1111/120 0/20/						 	•
		歌唱:曲想の変化を生かして	○「帰れソレントへ」						•
		が出. 血心の支化とエル ひて	・速さ、強弱の設定と転調による曲想の変化を	味わいたがら歌唱					
			・正確なイタリア詞唱と曲種に応じた歌い方をエ			0	0		評価の観点
	9		正がはなりアナアの時間と四位主にかした。例のできると	-^					知識・技能
		鑑賞:多彩な音楽を聴こう	○ ポピュラー音楽(ロック・ジャズ・ボサノヴァ)		-			ļ	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び
		塩貝・ググな日末と心にブ	・リズムや音色、旋律、音の重なりを聴取し、世界	の音楽を感じる					音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必
		中間考査(10/10~10/11)	□ 世界の諸民族の音楽(朝鮮半島・アラブ諸国						要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表して
=	10	十月 万 五(10/10 · 10/11)	・世界各国の諸民族の音楽や楽器を聴取し、音			0		0	เงอิง
学	10		・世外省国の韶氏族の自未や未確を駆取し、自己	ことの人口、衣気を味わり					思考 · 判断 · 表現
+									である。 刊断 ・ 表現 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連
期		歌唱:混声合唱の楽しみ	〇「大地讃頌」		-			 -	知覚し、それらの働きが生み出す特質な雰囲気 を感受しながら、知覚したこと感受したこととの
	11	歌唱: ルアロ唱の来しの	・歌詞の内容を味わった歌唱						わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現とし
			・声部の役割を理解して表現を工夫			0	0		てどのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって
			・声部の役割を理解して表現を工大						聞いたりしている。
		期末考査3年(11/27~12/3) 期末考査2年(11/28~12/3)			F				主体的に学習に取り組む態度 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう
	10		4			0	0	0	音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現 及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	12		○ 本本於に引え彼え「十 ^仏 詩!」区。		-			ļ	及び9月の子自治到に収り組むりとしている。
冬		冬季休業日(12/21~1/7)	○ 考査前に引き続き「大地讃頌」			0	0	0	
冬季		◇学体来口(12/21~1/1)	冬季休業日(12/21~1/7)		_			ļ	== /= + >+
		の場 ロナのに仕せなる bt 上 か	O SECULO 44 DV FELET						評価方法 学習の状況は、、「知能・技能」、「思考・判断・
	'	鑑賞:日本の伝統芸術の魅力 -能-	○ 鑑賞曲 能「敦盛」 ・ 面や衣装、舞台表現の特徴などの理解			0		0	表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの 観点で評価します。また、「出席」、「授業態度・耳
					-			ļ	組方」、「実技テスト(歌唱・器楽)」、「定期考査」
Ξ			・物語の内容の理解、声の出し方や楽器との合	「わぜ方に有日した鑑賞					「提出物(創作や鑑賞)」でも評価します。学年の 成績は、上記の観点から評価した各学期の成績
عدر	_	歌唱:混声合唱の楽しみ2	○「旅立ちの日に」	⊒ 60 □ □		0	0		の平均とし、5段階法で評定します。
学	2		・ 声部の役割や、速度や強弱の変化を生かした	公	<u> </u>			 	
期		学年末考査3年(2/21~2/28) 学年末考査2年(2/25~2/28)	・ 曲想の変化を感じ取って表現を工夫			0	0	0	, the -t-
					<u> </u>			 	備 考
	3		O [\$\delta \delta \del	± 777 / F			_		
			・ 箏の特徴、平調子について知り、基本的奏法	を首侍		0	0		
								<u> </u>	

 令和6年度

 シ ラ バ ス
 ス 愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	芸術	科目	音楽	学年	4	年	類型	共通	単位数	2	単位
									**		

孝	女科書	名	MOUSA 1	出版社名				教育芸術社
	1	T	₩ 第 M 函		⊕ ∓.	ŒΛ [‡]	a <u>F</u>	T
学期	月	単元	指導計画 内		知	囲の観	記忌主	授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		オリエンテーション	○ 1年間の音楽活動の概要		7	,,,,		授業の概要
	4	歌唱:正しい姿勢や呼吸法、発声法を	〇 「Ave Maria」、「Lemon」「負けないで」		0	0	0	基礎的な技能を踏まえ、歌唱、器楽、鑑賞活動
	7	身に付けよう	・基礎的な歌唱技能の確認					を行います。歌唱では、さまざまな国の歌に親し みます。また、正確な音程や響きの統一により美
		鑑賞:古典派の音楽を知ろう	〇 モーツァルトの生涯と作品			ļ	ļ	・しいハーモニーづくりを目指します。器楽ではギ ター、篠笛の基本的な奏法を学びます。
			・古典派音楽の特徴と作品の理解		0		0	
	5	中間考査(5/14~5/17)	O 「Heidenroslein」					
		歌唱:ドイツ語の歌に親しもう	- 歌詞の内容の理解		0	0	0	
学		器楽:ギターに挑戦1(単旋律)	Oエーデルワイス		•			
			・ギターの基本的な奏法と単旋律の演奏		0	0	0	
期	6	鑑賞:ミュージカルに親しもう	O「サウンドオブミュージック」			†		
			・ミュージカルについての理解を深め、情景をイ	メージして表現を工夫	0		0	学 習 の 到 達 目 標
			7		0			・楽曲に合った豊かな発声法や響かせ方を工夫し、言葉と音楽の結びつきに注意した表現をする。
		- 期末考査(6/26~7/2)			O		0	ることができる。 ・・ ギター、篠笛の基本的な奏法を身に付け、ア
	7	歌唱・ギターに挑戦2(コード)	○「カントリーロード」		0			ンサンブルを楽しむことができる。
	′		・コードの確認と弾き歌い		0	0	0	をつくることができる。
夏								・ 音楽の面白さやよさを感じ取り、根拠を持って 自分なりに批評することができる。
		夏季休業日(7/20~8/25)						
季	8							
		歌唱:イタリア語の歌に親しもう	O 「Caro mio ben」、「'O sole mio」					
			・歌詞の内容を理解し、表現を深めた歌唱		0	0	0	
	9		・ 用語や記号を表現に生かした歌唱			ļ	ļ	評価の観点
		歌唱:ミュージカルに親しもう	○ 「キャッツ」より「Mamory」					知識・技能
			・ ミュージカルについての理解を深め,情景を	イメージして表現を工夫	0		0	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などと の関わり及び音楽の多様性などについて理解を
		中間考査5年(10/1~10/4)	_					深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために
=		中間考査4・6年(10/8~10/11)	_			ļ	ļ	必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで 表している。
	10	鑑賞:オペラを聴こう	〇 オペラ「カルメン」		0		0	A
学			・フランス語のオペラの魅力や歌手の表現のコ	C 夫		ļ	ļ	思考・判断・表現
期		- 器楽: 篠笛に挑戦	O 「ほたるこい」、「さくら」		0	0	0	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を 知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚した。
///			・基本的な奏法の確認			ļ	ļ	とと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持って、音楽を評
	11	鑑賞:日本音楽の歴史を知ろう	○武満徹「ノヴェンバー・ステップス」					価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
			・日本音楽の特徴と発展、和楽器の伝承		0		0	
		期末考査(11/27~12/3)						主体的に学習に取り組む態度 音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協
	40	The ロエボルナボルン	0.5-0**				ļ	・ 日本、日本人にこまがに関わり上降的 励 ・ 働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうと している。
	12	歌唱:日本歌曲を歌おう	〇「この道」		0	0	0	C C 1.30
冬季	1	- 冬季休業日(12/21~1/7)	・ 日本語の美しい響き、鼻濁音について				ļ	
季	1	創作:iPadで作曲活動をしよう	 ○ オリジナル着信音の作曲					評価方法
	1	周1F.IFauでFm占到をしより	・ 音を加えたり、リズムや拍子、調などの要素	を変えたメロディーづくり				
	ļ '		- 日を加えたり、リヘムドロナ、時はこの安米	(を変えたアロティー フペケ	0	0	0	現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体物には、おもに「出席」「授
								業態度・取組方」「実技テスト(歌唱・器楽)」「提出物(創作・鑑賞)」「小テスト(知識・理解)」により
Ξ		器楽:篠笛に挑戦2	○「お囃子」		ļ	 	 	初い創作・鑑真プリハテスト(知識・珪牌)] こより 評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法で
学	2	加水・	・リズムの工夫と応用的な奏法の工夫					ら評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
1	-				0	0	0	
期		学年末考査4・5年(2/21~2/28)						備考
		歌唱:ヴォイスアンサンブルを楽しもう	 ○ヴォイスパーカッション「サザエさん」			 		
	3	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	→ パート練習及び全体練習		0	0	0	
			・発音の仕方とドラム特有の音質の表現		ľ			

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	学年	6	年	類型	✓ 1-1 / 1	単位数	2 単化	
----	----	----	-----	----	---	---	----	-------------------------	-----	------	--

 教科書名
 MOUSA2
 出版社名
 教育芸術社

学			指 導 計 画	評化	西の観	見点	
学期	月	単 元	内容	知	思	主	授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		オリエンテーション	〇 1年間の音楽活動の概要				授 業 の 概 要
	4	歌唱: 呼吸法と発声法	O「Alleluja」「SUN」「歩いて帰ろう」「ハナミズキ」 - 基礎的な歌唱技能の確認	0	0	0	高い楽曲に取り組み、器楽では自由な編成での アンサンブルやギター演奏を、鑑賞では近・現代
		00 % 12 L	0.54			ļ 	音楽といわれるジャンルの音楽を学習します。ま た、創作領域として、簡単な編曲にも挑戦しま
	_	器楽:ギター1	〇「糸」	0	0	0	す。
_	5	中間考査(5/14~5/17)	・コードの確認と弾き歌い			ļ	
学		鑑賞:交響曲	○交響曲41番ハ長調K.551ジュピターから第4楽章 ・モーツァルトの作品分析				
7		鑑賞:ミュージカル1	○「雨に唄えば」	0	0	0	
期		短点・ヘユーンガル!	・物語の考察と役者の表現力			9	
	6						 学習の到達目標
							・ 楽曲に合った発声法を目指すだけでなく、自
		期末考査(6/26~7/2)					分自身の声質や声域を理解し、より美しい歌声 作りをすることができる。
		歌唱:ドイツ歌曲	〇 ドイツ歌曲「春への憧れ」			ļ	・ 楽曲に対してこだわりをもち、より良い演奏を 目指すことができる。
	7		・正しいドイツ詞唱と曲想に応じた表現	0	0	0	
							・ 作曲者の意図を理解し、素直な気持ちで鑑賞することができる。
夏		夏季休業日(7/20~8/25)					・ 音楽の面白さやよさを感じ取り、根拠をもって
季	8						. 自分なりに批評することができる。
		器楽:ギター2	○「愛のロマンス」				1
			新しいコードの確認と弾き歌い	0	0	0	
							評価の観点
	9	創作:メロディーの雰囲気を変化させよう	〇 「Amazing Grace」で変奏曲をつくろう			}	知識 • 技能
							曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などと の関わり及び音楽の多様性について理解を深め
		中間考査5年(10/1~10/4)		0	0		るとともに、創意工夫を生かした音楽表現をする
=		中間考査4・6年(10/8~10/11)					ために必要な技能を身に付けている。
	10						
学		鑑賞、歌唱:オペラに親しもう	O 「トゥーランドット」			[思考 ・ 判断 ・ 表現
440			・ オペラ、作曲者プッチーニ、物語のあらすじについて理解	0	0		個性豊かに音楽の音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味
期			・ 音楽の要素や曲の特徴を把握し、自らの言葉で表現			ľ	わって聴くことができている。
	11		・ アリア「誰も寝てはならぬ」歌唱(イタリア語の確認)			ļ	
		歌唱:日本歌曲	〇「からたちの花」				
		期末考査(11/27~12/3)	・情景を思い出し、日本語を大切にした歌唱	0	0	0	主体的に学習に取り組む態度
				 	ļ	<u> </u>	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生 涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、
	12	鑑賞:ミュージカル2	○「グレーテストショーマン」	0	0	0	感性を高め、音楽文化を親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を
久		8 工以表现40.20	・物語の考察と役者の表現力	<u></u>		ļ	養っている。 :
冬季		冬季休業日(12/21~1/7)	ATT # \$8.90 v			<u> </u>	
		器楽:ギター3	○「天体観測」 ************************************	0	0	0	評価方法 学習の状況は、「知識・理解」「思考・判断・表
	1	可如 日 . 人 1日	・新しいコードの確認と弾き歌い	 	 	 	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		歌唱:合唱	○「瑠璃色の地球」	0	0	0	業態度・取組方」「実技テスト(歌唱・器楽)」「提出
Ξ			 混声合唱の響きを感じ取り、各声部の役割を知る 家庭学習 	ļ		<u> </u>	物(創作・鑑賞)」「小テスト(知識・理解)」により ・評価します。また、学年の成績は、上記の観点か
学	2		か 雌丁目				ら評価した各学期の成績の平均とし、5段階法で も評定します。
Ť				0		0	
期							備 考
				 		 	יי מוע
	3			 	ļ 	ļ	
				 	ļ 	ļ	
				<u> </u>			1
							l .

令和6年度 ス

愛媛県立宇和鳥南中等教育学校(前期課程用)

|--|

出版社名

教科書名

美術2・3上下 学びの実感と広がり・学びの探求と未来 日本文教出版 指 導 計 画 評価の観点 学期 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 知 思 主 単 元 内容 生活の中に生きる美術 ○遠近法で立体的に描く 0 授業の概要 オリエンテーション 2年生では遠近法や誇張や単純化の学習を通して、1年生で学んだ学習をさらに深め、絵画や立体のより高い表現を体得していきます。あこがれや夢を表現したり、楽しく効果的な表現をめざ 視点の冒険 透視図法(一点透視図法、二点透視図法)の仕組み 0 0 校内の透視図法になる場所を探して写真に撮ろう 0 0 0 写真をトレースしよう 0 し、表現の楽しさを感じ取っていきます 下描きの完成 0 0 0 中間考査(5/14~5/15) 水彩画の復習 0 着色 0 着色 0 **着色** 期 仕上げ 0 0 0 完成 学習の到達目標 透視図法を使って簡単な立体の表現ができ 0 0 期末考查3年(6/26~7/2) 〇ポスター制作・テーマを決める、深める。 0 ポスターの基礎・基本を理解し、制作に応用で 豊かなイメージで伝えよう(デザイン) 0 ・アイデアスケッチ 粘土による作品作りを通して、素材による幅広 い表現ができる。
・ アイデアを楽しく効果的に表現するための方 0 ・コピー(文案)レタリング、レイアウト、下描き 法を理解し、活用できる。 夏季休業日(7/20~8/25) 季 R ポスター鑑賞 0 〇日本の伝統技術を知ろう ・和菓子のデザイン・和菓子のデザイン 0 日本の美意識(彫刻) 自然の形体や材料を生かして 季節感のある形や色彩を知る。 0 評価の観点 食の場を彩ろう 日本の伝統色 0 知識 • 技能 【知】 形や色彩などが感情にもたらす効果や、具体物や行為を表す形の特徴などを基に、伝達するイメージなどを捉えることを理解している。 【技】絵の異などの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、制作の順序などを アイディアスケッチ 0 0 アイディアスケッチ 0 0 0 0 中間考査(10/10~10/11) 粘土制作① 総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表 0 0 10 粘土制作② している。 学 粘土制作③ 0 0 思考 ・ 判断 ・ 表現 【発】伝えたい内容やイメージなどを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、形や色彩などによる伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現する構想を 0 粘土制作④ 期 0 粘土制作⑤ (権) 伝えたい内容やイメージとの調和のとれた洗練された 美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などに ついて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深 めている。 0 粘土制作⑥ 0 完成 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査3年(11/27~12/3) 期末考査2年(11/28~12/3) (膨来)美術の適法活動の喜びを味わい主体的に構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追求し界通しを持って創造的に表したりする表現の学習活動」取り組むうとしている。 「殷鑑】美術の制造活動の悪びを味わい主体的に伝えたい内容やイメージとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組むうとしている。 0 相互鑑賞 0 12 作品鑑賞 ○美術がつなぐ人と文化 東へ、西へ・・・(鑑賞) 冬休みの課題説明 0 0 冬季休業日(12/21~1/7) 季 評 価 方 法 心でとらえたイメージ(絵画、デザイン) 〇自分との対話 0 0 評 伽 方 法
学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組み態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方、アイデア(下描き)」、「作品」、「鑑賞自己評価等」、「定期者査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 自分のイメージ 0 0 0 イメージの具現化 0 ・モダンテクニックの実践 0 Ξ 0 0 イメージの具現化 0 0 ・コラージュ 学 2 ・配色・着色の工夫 0 学年末考查3年(2/21~2/28) 学年末考查2年(2/25~2/28) 0 考 0 備 0 時代の流れの中で変化するデザイン(鑑賞 ·仕上げ ·完成 0 3 1年間のまとめ 相互鑑賞 0 0 まとめ

令和6年度 ス

愛媛県立宇和鳥南中等教育学校(前期課程用)

教科	美術	学年	3	年	時間数	35 時間
----	----	----	---	---	-----	-------

出版社名

教科書名

美術2・3上下 学びの実感と広がり・学びの探求と未来 日本文教出版 指 導 計 画 評価の観点 学期 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 知 思 主 単 元 内容 0 授業の概要 オリエンテーション 社会に広がる美術 3年生では、2年生までの学習を踏まえて パッケージデザインに関心を持って、ティッシュボックスのデザインを考える 魅力を伝えるパッケージ 0 0 れぞれの課題に自己のテーマを設定し、主体的 に制作活動をしていきます。表現能力や技能をさ らに高め、より良い作品を追求しながら、芸術の 暮らしを心地よくするインテリア 0 0 ・アイデアスケッチ 0 0 喜びを味わいます。 (理想のお菓子パッケージ) 下描き① 下描き② 0 0 中間考査(5/14~5/15) 0 着色① 5 0 着色② 0 着色③ 0 着色4 期 着色⑤ 0 0 完成 0 学習の到達目標 自分の表現したい意図が見る側にしっかり伝わるように粘り強く制作に取り組むことができる。 0 ര 期末考查3年(6/26~7/2) 1703よりに相り強く制作に取り組むことができる。 ・ 自分の個性を感性豊かに表現すると同時に、 友だちの作品の深みを読み取ることができる。 相互鑑賞 0 問題意識を形に(デザイン) 〇ポスター制作の基礎(テーマ選択)・テーマを決める、深める。 0 ポスターの意味をしっかりと理解し、高いレベ ・ ハペターの基本をじっかりと程序し、同いレベルで制作できる。 ・ 人間にとって芸術とは何なのか、を自分の問題として考えることができる。 0 (社会の問題を美術を涌してとらえよう) 構成美の要素 0 夏季休業日(7/20~8/25) 季 R 夏休みの課題ポスター鑑賞 0 - 屏風絵等日本の伝統絵画の鑑賞① O 0 日本の美意識 自然の形や材料を生かして ・屏風絵等日本の伝統絵画の鑑賞② 0 0 評価の観点 0 (点描技法を用いて) 和柄や紋のデザインから学ぶ 0 知識 • 技能 【知】 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、自分の印象などを全体のイメージで捉えることを理解している。 【技力料料の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表している。 0 アイデアスケッチ① アイデアスケッチ② 0 中間考査(10/10~10/11) 0 0 下描き① 0 0 10 下描き② 着色① 0 思考 ・ 判断 ・ 表現 【発】自己の内面などを基に主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え、創造的な構成をエ夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 0 着色② 期 0 着色③ 【鑑】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深 0 着色④ 0 完成 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査3年(11/27~12/3) 期末考査2年(11/28~12/3) 【態表】美術の創造活動の喜びを味わい主体的に自己の 内面などを基に構想を練ったり構図や表情など意図に応 じて表現方法を創造的に表したりする表現の学習活動に 0 相互鑑賞 12 さまざまなアートに触れよう - 鑑賞 \circ 取り組むうとしている。 【態鑑】美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的 なよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表情の意図 と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方 を深める鑑賞の学習活動に取り組むうとしている。 日本や世界の文化遺産 0 文化遺産についての鑑賞 冬季休業日(12/21~1/7) 季 石を彫る(デザイン・工芸) ○篆刻 0 0 評 価 方 法 評 伽 方 法
学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組み態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方、アイデア(下描き)」、「作品」、「鑑賞(自己評価等)」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 (自然とのつながりから生まれた造形) ・陽刻と陰刻について ・芸術作品としての印 0 0 アイデアスケッチ 0 O 彫る① 0 Ξ 0 彫る② O 彫る③ 0 完成 0 学年末考查3年(2/21~2/28) 学年末考查2年(2/25~2/28) 考 0 0 備 0 日本美術の展開と世界との交流(鑑賞) ・完成(2学期制作の屏風にも押印) 0 3 3年間のまとめ 〇巻末資料を基にDVD鑑賞 0 0 美術との向き合い方

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	芸術	科目	美術I	学年	4	年	類型	共通	単位数	2	2	単位
----	----	----	-----	----	---	---	----	----	-----	---	---	----

 教科書名
 美術1
 出版社名
 光村図書

	_		指 導 計 画	評化	西の観	見点	12 dt - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 1
学 期	月	単 元	内容	知	思	主	授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		オリエンテーション	美術1について	0			授 業 の 概 要
	4	ピクトグラムの制作(デザイン)	〇ピクトグラムとは ・運動部の部室のピクトグラム化	0			「美術 I 」では、 美術の幅広い創造活動を通して、 造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、
			・鑑賞・アイデアスケッチ		0		生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-			・下描き1・2		0		(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解 を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫
			・下描き3·4		0		し、創造的に表すことができるようにする。
	5	中間考査(5/14~5/17)	•着彩1•2	0	0		(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、 美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的
	İ		•着彩3•4	0			に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることがで
学			·着彩5·6	0			きるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生
			・仕上げ	0			涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性 を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を
期	6	作品鑑賞	•相互鑑賞·人気投票			0	創造していく態度を養う。
		ポスターの制作(デザイン)	〇ポスター制作の基本	0			
	ŀ					0	・絵画・彫刻では、感じ取ったことや考えたことな
ŀ		期末考査(6/26~7/2)	・テーマ決定 ・アイデアスケッチ1	l	0		どから 主題を生成し、その主題を追求して表現することができる。
			・アイデアスケッチ2・3	ļ	0		・デザインでは、目的、機能、美しさなどを考えて 主題を生成し、表現方法を工夫し、目的や計画を
	7		・下描き1・下描き2	0		 	基に表現することができる。 ・鑑賞では、美術作品などの良さや美しさ、作者
\dashv	ŀ			<u> </u>			の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理
夏		夏季休業日(7/20~8/25)					解を深めることができる。また、日本の美術の歴 史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化
季	8	文于PF末日(1/20 · 0/20)					について理解を深めることができる。
_		ポスターの鑑賞	•相互鑑賞			0	
ſ			*相互鑑真 〇油彩による有名な絵画作品を用いた自画像の制作	ļ		0	
		油彩画に親しむ(絵画)				J	5 本 本 年 上
	9	ごごクリマート 3 88	・自分の写真撮影	0	 -		評価の観点
		デジタルアート入門	・フォトショップによるデジタル加工作業1・2	0		ļ	知識 ・ 技能 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理
	ļ		・フォトショップによるデジタル加工作業3・4	0		 .	解している。
ļ	ŀ	中間考査5年(10/1~10/4)	・下描き1・2	0	0		・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
=	-	中間考査4・6年(10/8~10/11)	・下描き3・4	0	0	ļ	
.	10	水性油絵の具の特性 、下描きと地塗り	・下塗り1・2	0	0	ļ	
学			・下塗り3・4	0	0		思考・判断・表現
钥		明暗の表現(補色混合)	油彩での着色1・2	0		0	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生る。
**3		油彩の塗り方	・油彩での着色3・4	0	 -	0	み出し豊かに発想し構想を練ったり,美術や美術 文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
		陰影の塗り方	・油彩での着色5・6	0		0	
	ļ	細部の描き込み	・油彩での着色7・8	0		0	
ŀ		期末考査(11/27~12/3)			 	0	主体的に学習に取り組む態度
			・仕上げ	0	<u>[]</u>	0	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとして
	12	鑑賞	-鑑賞	0			いる。
			-映像鑑賞	0			
<u> </u>		冬季休業日(12/21~1/7)					
7		切り絵制作(デザイン・彫刻)	・切り絵の基本的な特徴 ・アイデアスケッチ1			0	評 価 方 法
	1		・アイデアスケッチ2 ・原案完成			0	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組み態度」の3つの
			・黒画用紙のカッティング1・2	ļ		0	点で評価を行う。具体的には、おもに「出席」、
_			・カッティング 1・2		0		「授業態度・取り組み方、アイデア(下描き)」、 「作品」、「鑑賞(自己評価等)」により評価を行う
Ξ			・カッティング3・4	ļ	0		また、学年の成績は、上記の観点から評価した 各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定を行
学	2		・カッティング5・6	ļ	0		ا ا
	ļ	W.E	・カッティングフ・8	l	0	l	
朝		学年末考査4・5年(2/21~2/28)	・仕上げ(バランスを見て制作)	0		0	備 考
	ŀ		・仕上げ(色画用紙に貼り、額にはめる)	0		0	
	3	鑑賞	•相互鑑賞	<u>-</u>		0	
			・一年間を振り返って	ļ	ļi	0	
		時を越える創造(鑑賞)	十回と水り込しく				

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	学年	6 4	+ 1	類型		単位数	2 単位	
----	----	----	-----	----	-----	-----	----	--	-----	------	--

教科書名 美術2 出版社名 光村図書

			指 導 計 画	評	西の領	日占	Г
学期	月	単 元	知	思思	主	授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		オリエンテーション	美術耳について	0			授業の概要
	4	卒業制作(デザイン)	○統一感をつくるデザイン	0	l	ļ	「美術Ⅱ」では、これまでの美術で学習したこと
		統一感をつくるデザイン	・スマホスタンドのデザイン		0	ł	を踏まえ、自分に合った表現方法を探りながら自 主的な創造活動を中心に行い、個性豊かな表現
		(スマホスタントのデザイン)	・自分のスマホと合うデザインのスマホスタンドを考える		0	ļ	の能力を養います。 また、幅広い地域や時代の作品や広く社会の
			・アイデアスケッチ				中で活躍する作家などを取り上げ、生涯を通して 美術文化について理解を深めます。
	5	中間考査(5/14~5/17)				0	XIIIXIBITE CITIFE MODULY 8
_			- ·制作			0	
学			·制作		·····	0	
			·制作			0	
期	_		・仕上げ		l	0	
	6		·鑑賞会		0	0	
							・ 制作におけるさまざまな技法を習得し、自己表
		期末考査(6/26~7/2)	- 問題を解決するデザイン	0	ļ 	 -	現に生かすことができる。 ・ 自分の個性や感性、思いを、相手に伝わるよ
		鑑賞	・作品鑑賞室	0	ļ 	 -	うに表現すると同時に、友だちの作品の思いも同様に読み取ることができる。
	7		・1学期のまとめ	- <u>-</u>	 	0	人間にとって芸術とは何なのか、自分にとって
					ļ	Ĭ	ころいう意味を持つのかを、自ら制TF9 る中で考えることができる。
夏		夏季休業日(7/20~8/25)			l	 	
季	8	2,11,444					
		・卒業制作(絵画・デザイン)	○タンブラー制作 ・アイデア	0	ļ	ļ	
		エッチングの世界	・アイデア		0	 -	
			・下描き		0	 -	評価の観点
	9		下描き		0	}	知識・技能
			下描き		0	}	・対象や事象を捉える造形的な視点について理
		中間考査5年(10/1~10/4)	r)mc			0	解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
		中間考査4・6年(10/8~10/11)	·制作		ļ	0	Solita Called No. alexin Solito
=	10	中间为五年(10/0~10/11)	-制作		ļ	0	
学	10		·制作		ļ	0	田本、判版、主田
7			•制作			0	思考 ・ 判断 ・ 表現 造形的なよさや美しさ, 表現の意図と工夫, 美
期			·制作		ļ	0	術の働きなどについて考えるとともに、主題を生 み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術
	11		・仕上げ			0	文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
	''		·鑑賞会		0	ļ	
			"種貝本		U	0	→ 什 M I - 岗 33 I - 町 I 44 + √ 鈴 中
		期末考査(11/27~12/3)	・インタビュー 美術の仕事	0	 	9	主体的に学習に取り組む態度 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現
	10	鑑賞	・インタビュー 美術の仕事	0	ļ	 	及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
	12	2	・映像鑑賞、2学期のまとめ	0	 	 -	
冬季		- 冬季休業日(12/21~1/7)	アルかを対して丁州ツのビツ	\vdash	ļ		
季		世界の美術(鑑賞)	○アニメーションの表現について理解を深める	0	ļ		評価方法
	1	レカマス的 (3重点 /	・鑑賞	0	 -	 -	計 ພ カ 広 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表
	'		·鑑賞	0	 -	 -	現」、「主体的に学習に取り組み態度」の3つの観点で評価を行う。具体的には、おもに「出席」、
	L		・ 毎月 6年間を振り返って		ļ	0	「授業態度・取り組み方、アイデア(下描き)」、
Ξ			の平间を振り返って家庭学習	ļ	 	 	また、学年の成績は、上記の観点から評価した
学	2		水陸丁目	ļ	ļ	0	各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定を行 う。
7				ļ	ļ	0	
期	L			ļ	 	0	
					 		ν μ
	3				 	 -	
					 	 -	
				_			